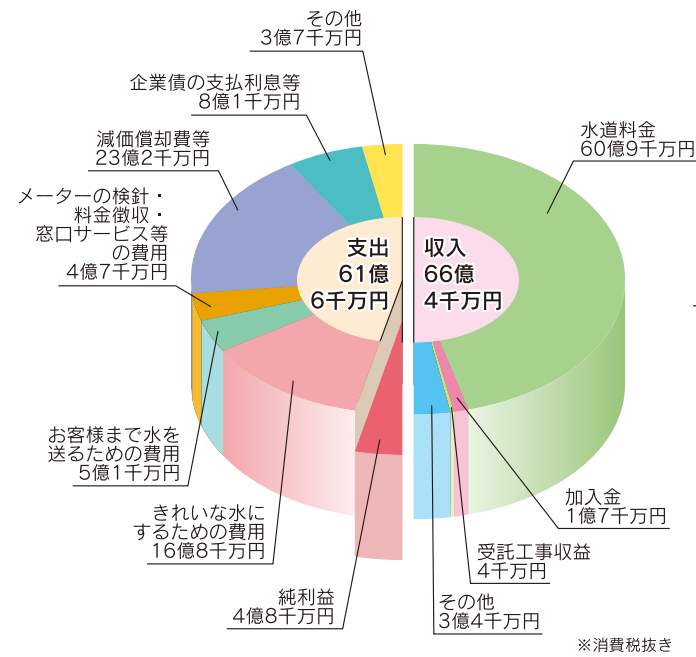


水道事業会計

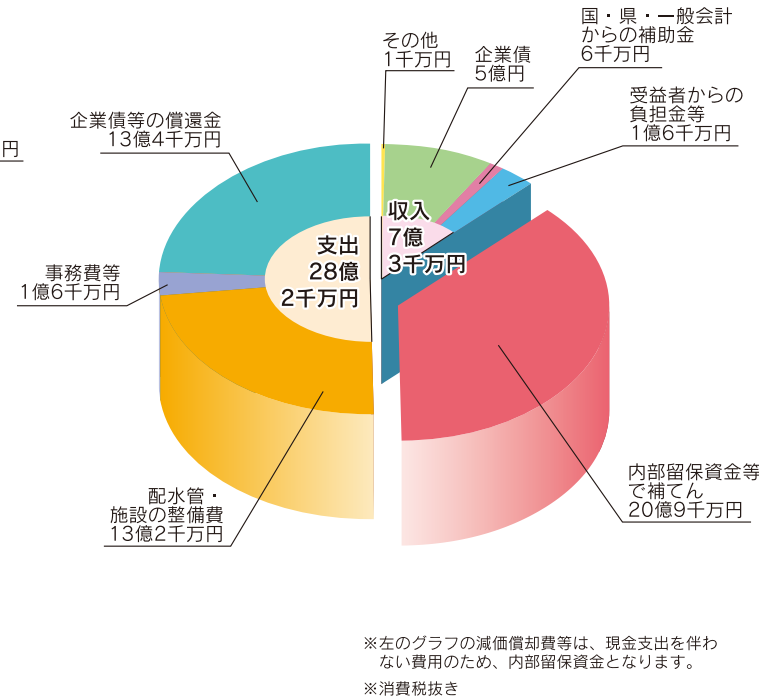
収益的収入・支出

水道水を作り、家庭などに送り届けるため、水道管や浄水施設の維持管理に必要な経費と財源です。



資本的収入・支出

水道管の布設や、処理施設を更新するために必要な経費と財源です。



22年度の事業経営について

水道事業は、景気低迷などによる厳しい経済情勢にあつて、水需要の落ち込みが続く中、経費の節減や経営の効率化、また、未納料金の収納対策を実施しながら、施設改良事業等、各種整備事業を継続して行い、渇水期や災害時における給水の安定を確保し、ライフライン機能の強化と安全で質の高い水道づくりに努めてまいりました。

その結果、4億8千万円の純利益を計上することができました

前年度との比較

	平成22年度	平成21年度	比較	
			増減	比率 (%)
給水人口 (人)	367,321	366,804	517	100.14
給水戸数 (戸)	149,943	148,413	1,530	101.03
年間有収水量 (m ³)	46,160,789	45,633,047	527,742	101.16
総収益 (千円)	6,638,600	6,588,891	49,709	100.75
総費用 (千円)	6,163,141	6,356,302	△ 193,161	96.96

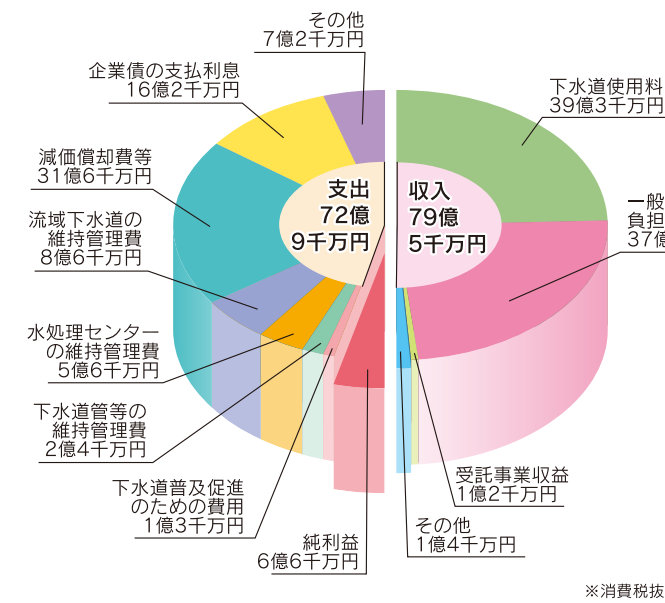
※用語の説明

- ◆ 年間有収水量・・・水道料金収入の対象となった水道水の1年間の水量
- ◆ 減価償却費・・・水道事業を運営していくため新たな水道施設に使ったお金を、定められた耐用年数に応じ回収する方法で、主として古くなった施設の更新や改良のための資金のこと。

公共下水道事業会計

収益的収入・支出

家庭などからの汚水をきれいな水にして再び川に戻すため、下水道管や処理施設の維持管理に必要な経費と財源です。



22年度の事業経営について

下水道事業は、高崎市合流改善計画により18年度から整備を進めてまいりました城南雨水滞水池が完成し、降雨時、未処理下水を河川に排出することによる河川の水質悪化を防ぐことができるようになりました。

未整備地区につきましては、管渠整備等の事業を進めながら、水洗化世帯の水酸化促進強化を図り、既存施設につきましては改良整備を実施し、適正な維持管理を努め、市民生活にとって不可欠なライフラインとして計画的に整備を進めてまいりました。

また、経営の効率化を図りながら、未納使用料の収納対策等を実施したことにより、6億6千万円の純利益を計上することができました

前年度との比較

	平成22年度	平成21年度	比較	
			増減	比率 (%)
水洗化人口 (人)	249,788	248,400	1,388	100.56
水洗化戸数 (戸)	105,746	104,379	1,367	101.31
年間有収水量 (m ³)	31,264,121	29,752,752	1,511,369	105.08
総収益 (千円)	7,946,337	7,772,687	173,650	102.23
総費用 (千円)	7,286,910	7,233,103	53,807	100.74

※用語の説明

- ◆ 年間有収水量・・・下水道使用料の徴収の対象となった汚水量など費用負担者が明確になっている1年間の水量
- ◆ 流域下水道・・・複数の市町村域にわたる広域的な下水処理施設のこと。高崎市は、12市町村を処理区域とする「利根川上流流域下水道(県央処理区)」に入る。
- ◆ 減価償却費・・・下水道事業を運営していくため新たな下水道施設に使ったお金を、定められた耐用年数に応じ回収する方法で、主として古くなった施設の更新や改良のための資金のこと。